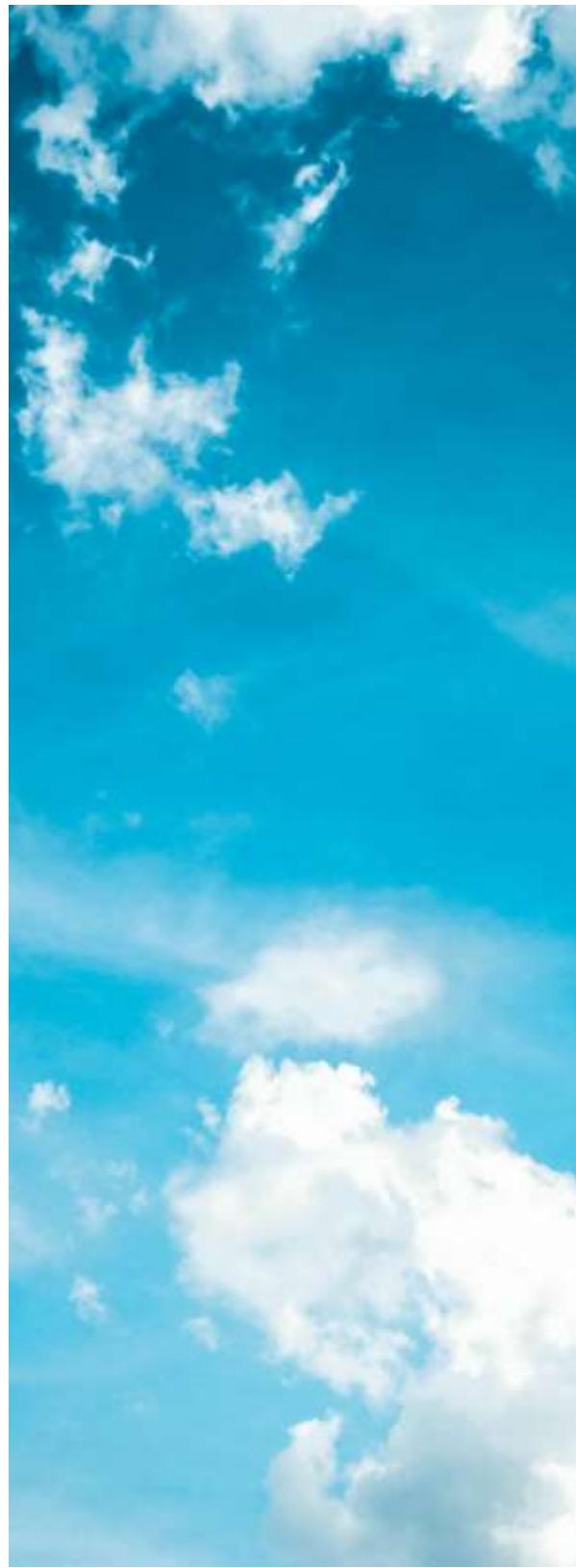


2021年度通常枠PO研修

事後評価報告・事業終了に向けて

一般社団法人全国食支援活動協力会 大池 絵梨香

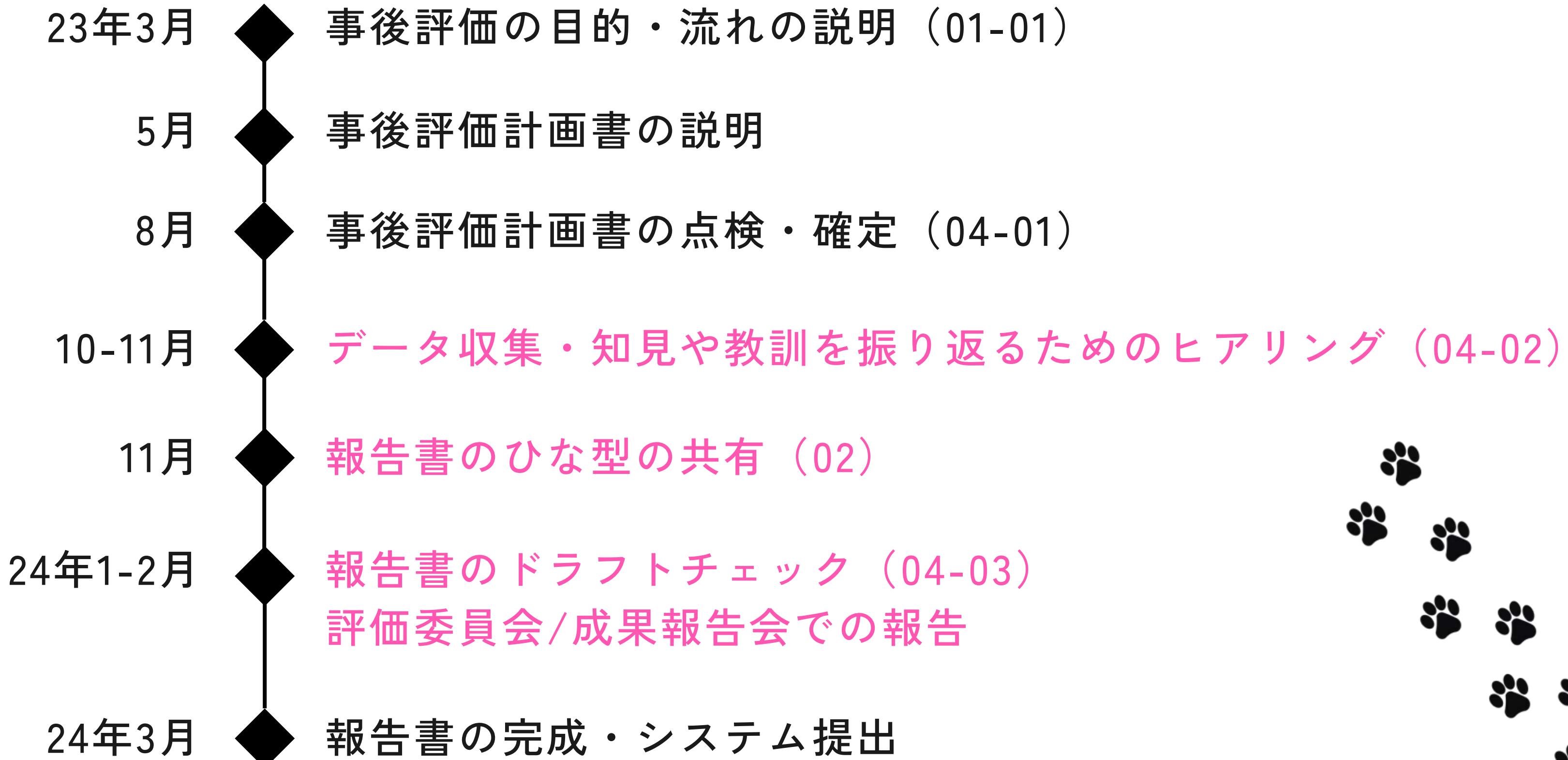


本日お話しすること

1. 事後評価報告の全体スケジュール
2. 報告書のまとめ方
3. 事後評価計画の作成について
4. 実行団体への報告に向けた支援
5. 実施から得た知見と学び

01

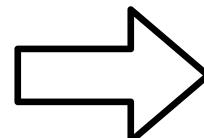
事後評価の全体スケジュール



01

事後評価の目的・流れの説明として以下の項目・内容を提示

■ 目的



- ・短期アウトカム1～3の達成状況の確認(評価小項目①～③)←
- ・中間アウトカム「企業・NPO・行政の連携によって地域が子ども達を地域で支えるための資源が循環するに」の発現に寄与しているかの確認←
- ⇒①～③の評価結果を踏まえた考察+食支援のための広域物流ネットワークのモデルがどこまで構築できたかどうか←

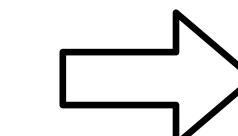
事後評価で収集したいデータ等(案)←

■ 実施体制

評価小項目(資金的支援)←	評価基準←		データ収集方法←
	判断方法(指標など)←	判断基準値(目標値/状態など)←	
① 資源を循環させるためのロジ拠点(共同事業体あるいはコンソーシアム)が作られ、有効に機能する←	<ul style="list-style-type: none"> ・実行団体が連携できる関係機関・団体← ・関係機関との連携内容← 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコマップの広がりから判断← ・事業終了後も継続な対話をを行うプラットホームが構築されている← 	エコマップの作成、実行委員参画団体からの聞き取り←
② 支援地域に企業・行政から様々な人・モノ・力が集まる←	<ul style="list-style-type: none"> ・提供食品量(県内・県外)← ・支援企業・行政課の実績数← 	<ul style="list-style-type: none"> **トン(資金分配団体からの配分実績含む)← **社・団体← 	実績から把握←
③ ロジ拠点が集まった資源を分配できるようになる←	<ul style="list-style-type: none"> ・分配先団体数← ・実行団体が開発した物流関係資本の広がり、事業終了後も資源を分配できる体制が整っているか← 	<ul style="list-style-type: none"> **団体← 物流体制図の前後比較で判断← 	物流における連携事例(どうやってつながったのか、実際に支援いただいている内容、今後の課題・展望など)の収集←
④ (事業効率性の分析)事業実施のためのインプットを無駄にせず事業に活かせたか←	<ul style="list-style-type: none"> «基礎指標例»← ・運営管理コストの妥当性← ・過大な支出はなかったか← ・遊休状態のインプットはあるか← 	<ul style="list-style-type: none"> *****← 	<ul style="list-style-type: none"> *****←
⑤ (組織基盤強化の分析)←	<ul style="list-style-type: none"> «指標例»← ・寄贈品を効率的に受け止めるための事務局でシステム化を試みたか← ・モデル形成を行うにあたっての人材育成度← 	<ul style="list-style-type: none"> *****← 例)寄贈担当者を設けた、寄贈管理システムの運用、お礼状のアプリ化等← 	<ul style="list-style-type: none"> *****←

■ スケジュール

■ 評価計画案



02 報告書のまとめ方

もくじ

1 基本情報・事業概要・報告書要約

2 事後評価実施概要

- 2-1 実施概要
- 2-2 実施体制

3 事業の実績

- 3-1 インプット（主要なものを記載）
- 3-2 活動とアウトプットの実績
- 3-3 外部との連携の実績

4 アウトカムの分析

- 4-1 アウトカムの達成度
- 4-2 波及効果

5 成功要因・課題

6 組織基盤強化の分析

7 結論

- 7-1 事業実勢のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
- 7-2 事業実施の妥当性

8 提言

9 知見・教訓

10 寄附（足りない）

参考)

全国食支援活動協力会の事後評価報告書

https://mow.jp/_userdata/pdf/2024/kyumin2020_zigohyoukafin.pdf

3-2. 活動とアウトプットの実績

主な活動（概要）	アウトプット	指標	初期値	目標値	目標達成期
<ul style="list-style-type: none">分配するルールについて協議する拠点間の食品の効率的な運搬方法を確立するため山口ロジハブ実行委員会と協議する各ハブ拠点の活動状況を把握する必要な拠点の数やストック許容量について協議する	0101. ロジ拠点がハブ拠点と解決すべき課題を共有できている	ロジ・ハブ拠点で構成する協議会の開催数や内容	年1～2回開催	年3～4回開催	2023年3月

実績値

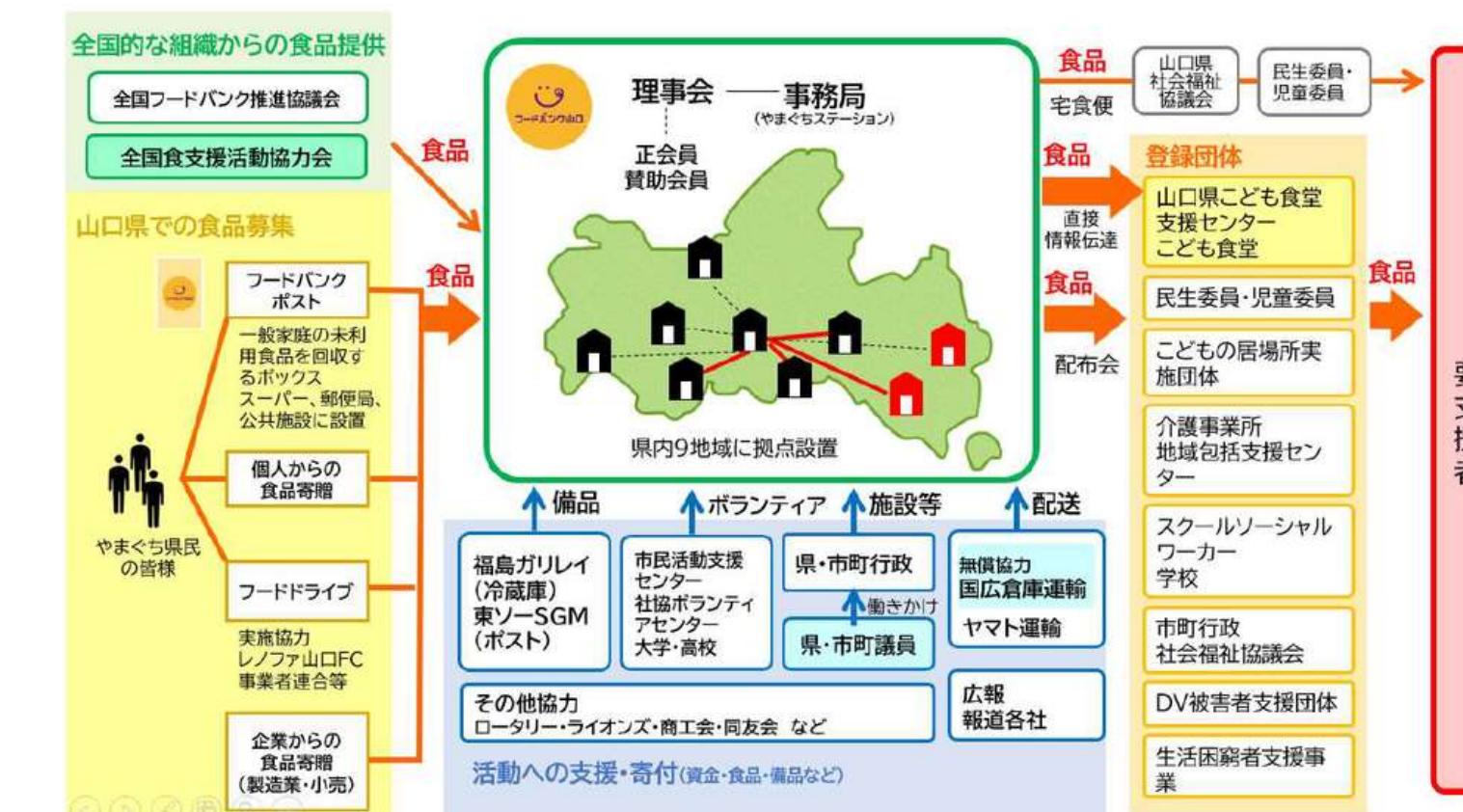
1年目：ロジ拠点と県内に6ヶ所あるハブ拠点の担当者を対象とした会議を、年4回開催する方針を2022年1月に決定し、以後定期的に実施。新たに1ヶ所ハブ拠点が開設し、既設と新設の拠点間での情報共有や全体方針の伝達などを行っていった。
ロジシステム導入にあたり、コーディネーターが支援団体へのシステム導入説明会を2回実施。
2年目：従来の食品受入れに加えて、域外からの食品受入れが始まったことで、各拠点の許容量等が明確に把握された。
ロジシステム運用にあたり、各拠点と支援団体26団体で導入。

3-3. 外部との連携の実績

エコマップ：事後評価時

ー等の統一やハ

目標達成期
2023年3月



03 事後評価計画の作成について

項目・評価小項目

判断方法（指標）

判断基準（目標値/目標状態）

入手手段

うまくいった理由・さらに改善するためには？

それでもやる必要があるということを理解してもらうには、共感・心を動かすための発信が必要だと思った。

北海道の寄贈品を受け入れるメンバーとしてもかかわっていたのでネットワークが複層的に絡んでいた

理解を動かした要因は、ひとつは何度も形を変えながら講演会や勉強会を実施したこと

実行委員会形式だったことで行政の理解が進んだと思う

2年目の学習会で連携につながる協力企業との出会いがあった。今も繋がって広がりが生まれている

多方面からのアプローチで人の縁がつながってたどり着いた

まだアプローチできていない業界団体ができていない

物流ニッポンの記者が企業を紹介

マスコミ・新聞などのメディアに

物流業界の現状

物流界隈の動き、情報をキャッチできるようになった

人脈

うまくいかなかった理由・どうやって乗り越えた？

子ども達の現状企業は簡単にわかったとは言つてもらえないんだなと思った。

子ども達がおかれている社会的状況・課題に対する理解を図るためにサヘルロースさんを呼んで講演会を行った

行政が動かなかった。担当者の意識の違いもあったかもしれない

項目	評価小項目	評価基準	
		判断方法（指標など）	判断基準値（目標値/状態など） 青字が入手手段
アウトカムの分析：	セントラル・ロジ拠点が集まった物資をロジ拠点とシェアできるようになる	北海道ロジネットワーク内の物流体制図	ロジネットワーク内の物流体制図
アウトカムの分析：	セントラル・ロジ拠点が集まった物資をロジ拠点とシェアできるようになる	セントラルロジ⇒ロジへの食品提供量	定量データの収集：資金分配団体からの支援物資量+独自の取扱量から算出
活動の改善・知見の共有：	北海道ロジネットワーク全体にヒト・モノ・カネが集まつたかどうか	40機関・団体 ※事業計画書より抜粋	実績のカウント
活動の改善・知見の共有：	支援企業・団体の獲得にあたって有効であったアプローチ方法を見出すことができたかどうか	食フェスタの実行委員会メンバー（事業開始時と終了時との比較）、催事の参加者層	食フェスタやロジハブ説明会のプログラム内容や巻き込む関係者、当日参加者を増やす工夫が事業開始時と比べ知見を教訓に改善されているか HIF担当者・PO・評価アドバイザーの3者で振り返りを行う
			以前のカウントと比較すると、ナローフォード・奇跡の町と比較した際に受け止め・分配体制が広がり効率化が図られている

審議の基準は、公開においてか密をされないアドバイス 審議性報酬は公表しないアドバイス 密接な評議への

04 実行団体の報告に向けた作成支援

01

収集データの確認

事後評価をするためにどんな定量・定性データが必要かを事前に確認しておき、事後評価で改めて収集すべきデータがどれくらいあるかを把握

02

報告書の項目の確認

3年間の活動を振り返り、①得られた変化、②中々うまく進まなかつた活動をどう改善できたか等、できしたことと出来なかつたことの整理を実施

03

報告書の内容の確認

提出された報告書に記載されている内容のなかで、根拠として不足している情報やヒアリングで確認していいた実績の加筆を依頼。

8月

10-11月

24年1-2月

05 実施から得た知見と学び



やってよかったこと

- ・共通のロジックモデル
 - ・指標を設定していたことで資金分配団体と実行団体で共通のアンケート調査を活用することができた
 - ・ひな型を提供することで必要最低限書いてほしい内容を伝えやすかった



むづかしかったこと

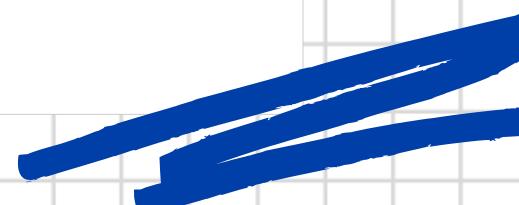
- ・アウトカムの変化に対する成功要因や課題にかんして深堀りて考察するための問い合わせの設定
- ・実行団体の作業ペースの進捗管理

おすすめすること

- ・ある程度どのようなことが言えそうかの見立てや情報の整理を一緒に行う事
- ・一緒に把握できるデータがないかあらかじめ確認しておく事

おすすめしないこと

- ・折角作った報告書が日の目に当たらない
- ・実行団体の報告と資金分配団体の報告がバラバラになっている



おわりに

2回目の事後評価でしたが、大変でした。余裕をもって工程表を作つておくと資金分配団体も実行団体も安心だと思います。

また、資金分配団体が先んじてこんなものを作ります、と提示してあげた方が、実行団体としては成果物のイメージ（作業量・内容の精度など）を持って取り組むことができると思います。

資金分配団体と実行団体とで、提言や教訓として記載する内容はそれぞれの立場に応じて主眼を変えて発信することを心掛けました。今後の事業推進に向けて関係者に読んでいただくためには、もっと工夫が必要だったと感じています。皆さんも**実行団体と事後評価で休眠事業で得られたどんな変化を確認したいのか、それを誰に伝えたいのか**を確認されることをおすすめします！





A wide-angle aerial photograph of a coastal area during sunset. The sky is filled with dramatic, colorful clouds ranging from deep blue to bright orange and yellow. Below, a large expanse of turquoise-blue water stretches towards a distant, hilly shoreline. A small, dark island or peninsula is visible in the lower right quadrant. The overall scene is serene and visually striking.

THANK YOU

ご清聴ありがとうございました。